

製品群No. 3

製品群No. 3

製品群No. 3

[illegible]

製品群No. 3

製品群No. 3

[illegible]

ワークシートNo.2

[illegible]

ワークシートNo.3

[illegible]

眠気防止薬

製品群No. 5

ワークシートNo.4

リスクの程度 の評価	A 薬理作用	B 相互作用	C 重篤な副作用のおそれ	C' 重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ	D 適用のおそれ	E 患者背景(既往歴、治療状況等) (重篤な副作用につながるおそれ)	F 効能・効果(症状の悪化につながるおそれ)	G 使用方法(使用のおそれ)	H スイッチ化等に伴う使用環境の変化	用法用量	効能効果
評価の視点	薬理作用	相互作用	重篤な副作用のおそれ	重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ	適用に基づく留意性	適応疾患	症状の悪化につながるおそれ	使用法・使用量・使用環境の変化	スイッチ化等に伴う使用環境の変化	用法用量	効能効果
ピタミン成分	体内でリン酸ピロキシンと結合し、細胞ミトコンドリア内におけるB6酵素群の補酵素として生体のたんぱく質・アミノ酸代謝の中心的役割を果たす。γ-アミノ酪氨酸の生成や各種のアミノ酸(アミノ酸、ノルアドレナリン、5-ヒドロキシトリプトファン等)の生成に不可欠である。脂質代謝との関係も認められている。	併用禁忌(他剤との併用により重大な副作用が生ずるおそれ) 併用注意 レボドパ(レボドパの作用を減弱)	重篤な副作用のおそれ 薬理・毒性に特異体質・アレルギー等によるもの	重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ 薬理・毒性に特異体質・アレルギー等によるもの	薬理に基づく留意性	適応疾患 (発汗により悪化の再発・悪化のおそれ)	症状の悪化につながるおそれ	使用法・使用量・使用環境の変化	スイッチ化等に伴う使用環境の変化	用法用量 成人1日10～100mgを経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。与える場合は、必要に応じて、より大用量を用いる必要がある場合は、リン、ベニシリン、ピタミンB6の需量を増大し、食事からの摂取が不足な状態に陥った投与量に調整し、症状に適合した投与量に調整すること。高齢者では減量。	効能効果 ピタミンB6は、ビタミンB6の補酵素として、リン、ベニシリン、ピタミンB6の需量を増大し、食事からの摂取が不足な状態に陥った投与量に調整し、症状に適合した投与量に調整すること。高齢者では減量。

眠気防止薬

製品群No. 5

ワーキングNo.4

リスクの程度 の評価	A 薬理作用	B 相互作用		C 重篤な副作用のおそれ	D 薬用のお それ	E 薬理作用(既往歴、治療状況等) (重篤な副作用につながるおそれ)		F 効能・効果(症状の悪化 につながるおそれ)	G 使用方法(薬使用のおそれ)		H スイッチ 化等に伴う 使用環境の 変化	用法用量	効能効果
		薬理作用	相互作用 併用注意	重篤な副作用のおそれ 薬理・毒性に 特異的性質・ア レルギー等 に基づくもの によるもの	重篤ではないが、注意すべ き副作用のおそれ 薬理・毒性に 特異的性質・ア レルギー等 に基づくもの によるもの	薬理に基づく 薬性	重篤な副作用 通称薬名	症状の悪化 につながるお それ	使用方法(薬使用のおそれ) 使用量に上 限があるもの 使用のおそれ	長期使用に よる副作用 のおそれ	スイッチ化 等に伴う使 用環境の変 化		
ヒタミンB12 成分	メチコバール錠250μg ノメチコ パール錠 500μg	メチコバール は、生体内で ビタミンB12の1種 であり、ホモ システインか らメチオニン を合成するメ チオニン合成 酵素の補剤 として働 き、メチル基 転位反応に 重要な役割を 果たす。 神経細胞内 小胞管へよく 移行し、葉 酸・蛋白合成 を促進する作 用 細胞内輸送、 細胞膜上の 促進する作 用 脂肪形成(リ ン脂質合成) の促進する 作用 シニアス伝達 の促進、神経 伝達物質の 減少を回復す る作用 を有する。	併用禁忌(他 剤との併用に より重大な同 副作用が生ず るおそれ)	重篤な副作用のおそれ 薬理・毒性に 特異的性質・ア レルギー等 に基づくもの によるもの	重篤ではないが、注意すべ き副作用のおそれ 薬理・毒性に 特異的性質・ア レルギー等 に基づくもの によるもの	薬理に基づく 薬性	通称薬名	症状の悪化 につながるお それ	使用方法(薬使用のおそれ) 使用量に上 限があるもの 使用のおそれ	長期使用に よる副作用 のおそれ	スイッチ化 等に伴う使 用環境の変 化	錠250μg 通常、成人は1日6錠(メコ バール錠として1日1,500μ g)を3回に分けて経口投 与する。 ただし、年齢及び症状によ り適量増減する。 錠500μg 通常、成人は1日3錠(メコ バール錠として1日1,500μ g)を3回に分けて経口投 与する。 ただし、年齢及び症状によ り適量増減する。 本剤投与で効果が見られ ない場合、月余にわ たつて経口投与すべきで はない。水腫及びその化 合物を取り除く薬を併用 者に長期にわたつて大量 に投与することは避けるこ とが望ましい。	精神性神経障 害

鎮うん薬(乗物酔防止薬、つわり用薬を含む)

製品群No.6

ワーグシートNo.5

リスクの程度 の評価	A 薬理作用	B 相互作用	C 重要な副作用のおそれ すべき副作用のおそれ	D 薬用のお それ	E 患者等事象(既往歴、治療状態等) (重要な副作用につながらず)	F 効能・効果(症状の悪化 につながらず)	G 使用方法(薬使用のおそれ)	H スイッチ 化等に伴う 使用環境の 変化	機能効果
評価の強点	薬理作用	相互作用	重要な副作用のおそれ 併用注意 併用薬思(他 剤との併用に より重大な問 題が生ずる おそれ)	薬理に基づく 習慣性	重要な副作用 過敏症	症状の悪化 につながらず それ	使用方法(薬使用のおそれ) 使用量により、過量使用・誤使 用があるもの	スイッチ化 等に伴う使 用環境の変 化	用法用量
塩酸ジフェニ トール	中枢鎮静作用 、前庭神経 路の興奮作 用、眼瞼抑制 作用	併用薬思(他 剤との併用に より重大な問 題が生ずる おそれ)	重要な副作用に 特異性、ア レルギ等 に基づくもの によるもの	薬理に基づく 習慣性	過敏症 過敏症(既往歴、治療状態等) (重要な副作用につながらず)	症状の悪化 につながらず それ	使用方法(薬使用のおそれ) 使用量により、過量使用・誤使 用があるもの	スイッチ化 等に伴う使 用環境の変 化	用法用量 1回5～30mg、1日3回 口投与。 高齢者では減量。
抗ヒスタミン成分									内耳障害にも つづめまい
塩酸メクリジ ン									
サリチル酸ジ フェニトール ミン	抗ヒスタミン 作用 H1受容体に 対して競合的 に拮抗すること により作用を あらわす。 ヒスタミン遊 離抑制作用:	アルコール・中枢神経抑制 薬・MAO阻害剤(中枢神経 抑制作用が強い)、抗コリン 作用を有する薬剤(抗コリン 作用が強い)		頻度不明(過 敏症)	過敏症(既往歴、治療状態等) (重要な副作用につながらず)				塩酸ジフェニトールミンとし て、通常成人1回30～ 50mg(3～5錠)を1日2～3 回経口投与する。 なお、年齢、症状により適 宜増減する。
ジメンペリ ナート	迷走神経節 を抑制し、心 動過速を抑制 する。また嘔 吐・中枢神経 作用を示し、 鎮吐作用を 有する。セサ ンチン構造を 有する。	中樞神経抑制剤・アルコー ル(相互に作用増強)、第8 対神経経路を阻害するアミン 系阻害剤(第8対神経経路を阻 害するアミン系阻害剤) (麻酔の不可逆性増強)		頻度不明(過 敏症)	過敏症(既往歴、治療状態等) (重要な副作用につながらず)		1日200mg		動揺病、メ ニエール症候 群、放散性 神経痛に伴う 嘔吐・眩暈、手 の麻痺、手足 の麻痺、嘔吐 後の悪心、嘔 吐

鎮うん薬(乗物酔防止薬、つわり用薬を含む)

製品群No.6

ワグシートNo.5

リスクの程度 の評価	A 薬理作用	B 相互作用	C 重篤な副作用のおそれ	C' 重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ	D 薬用のおそれ	E 副作用量(慢性症、治癒後等) (重篤な副作用につながらず)	F 効果・効果(症状の悪化 につながらず)	G 使用方法(使用期間のおそれ)	H スイッチ 化等に伴う 使用環境の 変化	効果効果
評価の観点	薬理作用	相互作用	重篤な副作用のおそれ	重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ	薬理作用のおそれ	副作用量(慢性症、治癒後等) (重篤な副作用につながらず)	効果・効果(症状の悪化 につながらず)	使用方法(使用期間のおそれ)	スイッチ 化等に伴う 使用環境の 変化	効果効果
併用禁忌(他 剤との併用に より重大な副 作用が生ずる おそれ)	併用注意	重篤・重症に 基づくもの	重篤・重症に 基づくもの	重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ	薬理・毒性に 基づくもの	副作用量(慢性症、治癒後等) (重篤な副作用につながらず)	効果・効果(症状の悪化 につながらず)	使用方法(使用期間のおそれ)	スイッチ 化等に伴う 使用環境の 変化	効果効果
塩化マレイン酸 クロロフェニ ラミン	抗ヒスタミン 作用	中脳神経抑制薬・アルコ ール・MAO阻害剤・抗コリン作 用薬等による意識障害に作用 を併発し、ドロキリジン・ナル コチン・フェニチン血圧の上 昇	鎮痛・解熱・ 麻酔・鎮静・ 鎮痙・鎮痙 作用(鎮痙不 明)	5%以上又は5%以上又は 鎮痙・解熱・ 麻酔・鎮静・ 鎮痙・鎮痙 作用(鎮痙不 明)	5%以上又は5%以上又は 鎮痙・解熱・ 麻酔・鎮静・ 鎮痙・鎮痙 作用(鎮痙不 明)	5%以上又は5%以上又は 鎮痙・解熱・ 麻酔・鎮静・ 鎮痙・鎮痙 作用(鎮痙不 明)	5%以上又は5%以上又は 鎮痙・解熱・ 麻酔・鎮静・ 鎮痙・鎮痙 作用(鎮痙不 明)	5%以上又は5%以上又は 鎮痙・解熱・ 麻酔・鎮静・ 鎮痙・鎮痙 作用(鎮痙不 明)	5%以上又は5%以上又は 鎮痙・解熱・ 麻酔・鎮静・ 鎮痙・鎮痙 作用(鎮痙不 明)	塩化マレイン酸・クロロフェニ ラミンにて、通常、成人に は1回2mgを1日1～4回経 口投与する。なお、年齢、 症状により適宜増減する。

鎮うん薬(乗物酔防止薬, つわり用薬を含む)

製品群No.6

ワークシートNo.5

[illegible]

その他の精神神経用薬

製品群No. 8

ワークシートNo.6

リスクの程度 の評価	A 薬理作用	B 相互作用	C 重篤な副作用のおそれ	D 薬用のお それ	E 患者背景(既往症、治療状況等) (重篤な副作用に関するおそれ)	F 効果・効果(症状の悪化 につながるおそれ)	G 使用方法(使用のおそれ)	H スイッチ 化等に伴う 使用環境の 変化	効能効果
評価の視点	薬理作用	相互作用	重篤な副作用のおそれ	薬理に基づく 薬性	適応疾患 (投与により障害の 再発・悪化のおそれ)	症状の悪化 につながるお それ	使用方法(使用のおそれ)	スイッチ化 等に伴う使 用環境の変 化	効能効果
評価の視点	薬理作用	相互作用	重篤な副作用のおそれ	薬理に基づく 薬性	適応疾患 (投与により障害の 再発・悪化のおそれ)	症状の悪化 につながるお それ	使用方法(使用のおそれ)	スイッチ化 等に伴う使 用環境の変 化	効能効果
メトカルバ モール	中枢神経抑制作用 作用	中枢神経抑制薬・アルコール・MAO阻害薬(相互に作用を相乗)・抗動脈圧薬(抗動脈圧薬)	中枢神経抑制薬・アルコール・MAO阻害薬(相互に作用を相乗)・抗動脈圧薬(抗動脈圧薬)	中枢神経抑制薬・アルコール・MAO阻害薬(相互に作用を相乗)・抗動脈圧薬(抗動脈圧薬)	中枢神経抑制薬・アルコール・MAO阻害薬(相互に作用を相乗)・抗動脈圧薬(抗動脈圧薬)	中枢神経抑制薬・アルコール・MAO阻害薬(相互に作用を相乗)・抗動脈圧薬(抗動脈圧薬)	中枢神経抑制薬・アルコール・MAO阻害薬(相互に作用を相乗)・抗動脈圧薬(抗動脈圧薬)	中枢神経抑制薬・アルコール・MAO阻害薬(相互に作用を相乗)・抗動脈圧薬(抗動脈圧薬)	運動器系に 作用する 薬が体重1kg当たり60mg を超えない。
エテンザミ ン	中枢神経抑制作用 作用	中枢神経抑制薬・アルコール・MAO阻害薬(相互に作用を相乗)・抗動脈圧薬(抗動脈圧薬)	中枢神経抑制薬・アルコール・MAO阻害薬(相互に作用を相乗)・抗動脈圧薬(抗動脈圧薬)	中枢神経抑制薬・アルコール・MAO阻害薬(相互に作用を相乗)・抗動脈圧薬(抗動脈圧薬)	中枢神経抑制薬・アルコール・MAO阻害薬(相互に作用を相乗)・抗動脈圧薬(抗動脈圧薬)	中枢神経抑制薬・アルコール・MAO阻害薬(相互に作用を相乗)・抗動脈圧薬(抗動脈圧薬)	中枢神経抑制薬・アルコール・MAO阻害薬(相互に作用を相乗)・抗動脈圧薬(抗動脈圧薬)	中枢神経抑制薬・アルコール・MAO阻害薬(相互に作用を相乗)・抗動脈圧薬(抗動脈圧薬)	運動器系に 作用する 薬が体重1kg当たり60mg を超えない。
エテンザミ ン	中枢神経抑制作用 作用	中枢神経抑制薬・アルコール・MAO阻害薬(相互に作用を相乗)・抗動脈圧薬(抗動脈圧薬)	中枢神経抑制薬・アルコール・MAO阻害薬(相互に作用を相乗)・抗動脈圧薬(抗動脈圧薬)	中枢神経抑制薬・アルコール・MAO阻害薬(相互に作用を相乗)・抗動脈圧薬(抗動脈圧薬)	中枢神経抑制薬・アルコール・MAO阻害薬(相互に作用を相乗)・抗動脈圧薬(抗動脈圧薬)	中枢神経抑制薬・アルコール・MAO阻害薬(相互に作用を相乗)・抗動脈圧薬(抗動脈圧薬)	中枢神経抑制薬・アルコール・MAO阻害薬(相互に作用を相乗)・抗動脈圧薬(抗動脈圧薬)	中枢神経抑制薬・アルコール・MAO阻害薬(相互に作用を相乗)・抗動脈圧薬(抗動脈圧薬)	運動器系に 作用する 薬が体重1kg当たり60mg を超えない。
エテンザミ ン	中枢神経抑制作用 作用	中枢神経抑制薬・アルコール・MAO阻害薬(相互に作用を相乗)・抗動脈圧薬(抗動脈圧薬)	中枢神経抑制薬・アルコール・MAO阻害薬(相互に作用を相乗)・抗動脈圧薬(抗動脈圧薬)	中枢神経抑制薬・アルコール・MAO阻害薬(相互に作用を相乗)・抗動脈圧薬(抗動脈圧薬)	中枢神経抑制薬・アルコール・MAO阻害薬(相互に作用を相乗)・抗動脈圧薬(抗動脈圧薬)	中枢神経抑制薬・アルコール・MAO阻害薬(相互に作用を相乗)・抗動脈圧薬(抗動脈圧薬)	中枢神経抑制薬・アルコール・MAO阻害薬(相互に作用を相乗)・抗動脈圧薬(抗動脈圧薬)	中枢神経抑制薬・アルコール・MAO阻害薬(相互に作用を相乗)・抗動脈圧薬(抗動脈圧薬)	運動器系に 作用する 薬が体重1kg当たり60mg を超えない。

ヒスタミンH2受容体拮抗剤含有薬

製品群No. 9

ワークシートNo.7

[illegible]

ワークシートNo.8

制酸成水

リスクの評価	A 薬理作用	B 相互作用	C 重篤な副作用のおそれ	C' 重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ	D 適用のおそれ	E 患者背景(併存症、治療法等) (重篤な副作用につながるおそれ)	F 効能・効果(症状の悪化につながるおそれ)	G 使用方法(併使用のおそれ)	H スイッチ化等に伴う使用環境の変化	効能効果
評価の視点	薬理作用	相互作用	併用禁忌(他の剤との併用により重篤な副作用が生ずるおそれ)	重篤な副作用のおそれ	重篤な副作用のおそれ	重篤な副作用のおそれ	重篤な副作用のおそれ	重篤な副作用のおそれ	併用禁忌(他の剤との併用により重篤な副作用が生ずるおそれ)	用法用量
胃酸分泌抑制成分	胃酸分泌抑制作用	胃酸分泌抑制作用	胃酸分泌抑制作用	胃酸分泌抑制作用	胃酸分泌抑制作用	胃酸分泌抑制作用	胃酸分泌抑制作用	胃酸分泌抑制作用	胃酸分泌抑制作用	胃酸分泌抑制作用
胃酸分泌抑制成分	胃酸分泌抑制作用	胃酸分泌抑制作用	胃酸分泌抑制作用	胃酸分泌抑制作用	胃酸分泌抑制作用	胃酸分泌抑制作用	胃酸分泌抑制作用	胃酸分泌抑制作用	胃酸分泌抑制作用	胃酸分泌抑制作用